

社会福祉法人愛知三愛福祉会理事会・評議員会



愛知三愛福祉会は池田曠理事長はじめ10人の理事、21人の評議員、2人の監事が責任を持って定期的に理事会・評議員会を開き、法人の経営・運営について、熱心に協議を重ねています。

3月28日に開催された理事会・評議員会において、2015年度の予算を審議し、5月30日には2014年度の事業報告、決算報告に関する理事会・評議員会が開催され、慎重な審議の結果、下記の財務報告が承認されました。

事業活動計算書(単位:千円)
(2014年4月1日~2015年3月31日)

サービス活動増減の部	収益	378,892
サービス活動増減の部	費用	371,854
	うち人件費	263,195
	事業費	60,028
	事務費	31,197
	減価償却費	35,064
	国庫補助金取崩額	-17,630
サービス活動増減差額		7,038
サービス活動外増減差額		-1,440
経常増減差額		5,597
当期活動増減差額		5,597
前期繰越活動増減差額		82,872
当期末繰越活動増減差額		88,469
修繕積立金等積立額		5
次期繰越活動増減差額		88,464

貸借対照表(2015年3月31日現在)

(単位:千円)

流動資産	190,997	流動負債	44,529
固定資産	675,442	固定負債	139,520
うち基本財産	593,956	純資産	682,390
うちその他の固定資産	81,486	うち次期繰越活動増減差額	88,464
資産の部合計	866,439		866,439

三愛後援会報告

2014年度も多くの後援会員様、ボランティアさん、ご家族の皆様方より様々な形でのご協力・ご支援を賜り、職員一同、心から感謝申し上げます。

後援会員様からいただいたご寄附につきましては、「デイサービスセンターさんあい」の送迎車両の買い替え資金の一部として、ありがたく使用させていただきました。

新しいテイの送迎車(ファンカーゴ)



ありがとうございました!

また、下記の方々より2014年度(2014年4月~2015年3月)に法人へ直接、寄附・寄贈いただきましたことを感謝をもってご報告いたします。 ※敬称略、順不同

西田勝	西村高志	西村通	齋藤薫	大畑美和子
高浪英勝	菅野昭男	加藤玲子	細江均	坂口和子
十字ヶ丘復活苑	三愛後援会	ボランティア一同	金城学院大学キリスト教センター	(敬称略、順不同)

社会福祉法人愛知三愛福祉会 2014年度を振り返って（事業総括）

施設長：大畑美和子

2014年8月から審議されていた、社会福祉法人制度改革についての報告書が公表された。内部留保問題などの批判が高まり、社会福祉法人を取り巻く環境は厳しくなり、財務諸表や事業計画の公表の義務化が始まった。当法人は既に「三愛だより」と「ホームページ上」で公表していたが、事業計画も含めて新たに公表し、運営の透明性を確保している。更に、国民や地域住民に対する説明責任があり、現在実施している事業のサービスの質の向上への努力が必要である。それについては、当法人は2年にわたり介護力向上講座への参加、内部では介護力向上委員会を開催し、講座での課題にスタッフ全員で取り組み、努力を続けている。今後も、理念に基づき、根拠に基づく介護のより一層の向上を目指し、実践に活用する。収支では、消費税率の引き上げに伴い支出が全般的に増加し、一方、介護報酬の収入で反映されなかったため厳しい1年となった。また、各種設備や機器が故障し、毎日のように修繕や交換の事案が上がった。特に、エアコン、食洗機、配水管の水漏れ、厨房機器があり、修理が出来ずリースにしたものもある。開設12年目となる今年度は益々、建物管理、諸設

備の維持管理に相当な経費が必要となってくる。その他に、介護人材枯渇時代といわれ、当法人も、介護職員の募集をしても、応募がなく、人材不足に悩んだ。高齢化が、世界に類のないスピードで進行している我が国は超高齢社会を迎えた。また、人生の最期を迎える場として、法人理念の介護の基本方針にあるように「良い人生であったと思えるように、最期の時まで、その人らしく生きられるように心をこめてお手伝いします」がスタッフに浸透し、看取りケアとともに認知症ケアの専門性を発揮してこそ、特養の存在意義があると考えます。しかし、非課税撤廃問題を含め、冬の時代を迎えると言われている社会福祉法人は、これまでと同様の事業のみを実施しているだけでは、社会福祉法人の存在意義が理解されなくなってきている。地域の課題に取り組み、その実践を発信していくことが求められる。また、「施設から在宅へ」の流れの中で、地域のセーフティネットとしての「拠点施設」があつてこそ「地域包括ケアシステム」が実現すると考える。今年度は池田新理事長を迎え新しい体制となり、これからの経営を進めていきたい。